# 会社案内

## 事業内容

■ 地表地質踏査
　路線調査・地すべり調査・変質帯調査ほか
■ ボーリング調査（高品質コア採取）
■ 原位置試験
　標準貫入試験・孔内載荷試験・平板載荷試験
　その他試験
■ サウンディング試験
　スウェーデン式サウンディグ試験
　簡易動的コーン貫入試験・静的コーン貫入試験ほか
■ 乱れの少ない試料採取
　シンウォールサンプリング・デニソンサンプリング
　トリプルサンプリング
■ 孔内試験
　現場透水試験・ルジオン試験・湧水圧測定
　電気検層・地下水検層・揚水試験・その他試験
■ ボアホールカメラ観察
■ 物理探査/埋設管探査/空洞調査
　ＰＳ検層・弾性波探査・電気探査
　表面波（レイリー）探査・地中レーダ探査・鉄筋探査
■ 室内土質・岩石試験・配合試験

## 会社概要

□ 商　　号／株式会社 西日本ソイルコンサルタント
□ 創　　立／昭和62年6月15日
□ 資　本　金／16,000,000円
□ 代　表　者／代表取締役 清﨑 聖一
□ 役　　員／取　締　役 田島 将史
　　吉村 健一
　　監　査　役 清﨑 淳子
□ 社　員　数／6名
□ 事　業　所／〒812-0063
　福岡県福岡市東区原田3丁目2-4
　TEL 092-612-5970　FAX 092-612-5971
　E-mail:info@nishinihon-soil.co.jp
　http://www.nishinihon-soil.co.jp

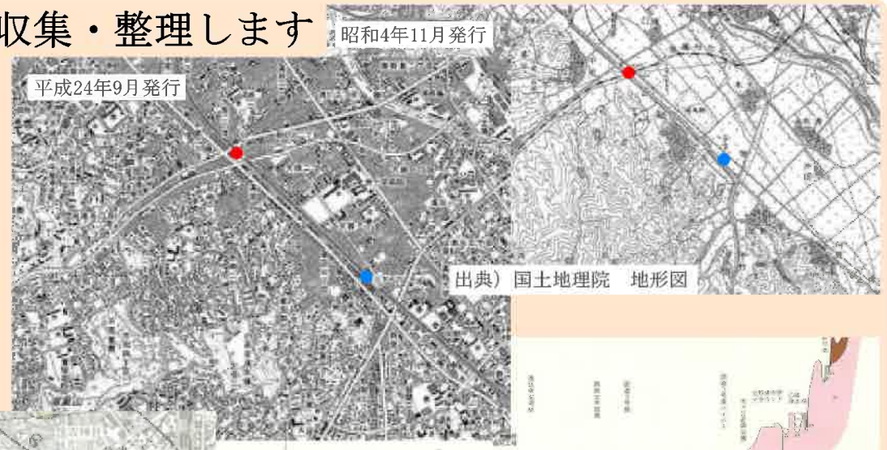
□ 許　　可／国土交通省 地質調査業者登録 第1403号
□ 所属団体／（一般社団）全国地質調査業協会連合会
　（一般社団）九州地質調査業協会
　（一般社団）福岡県地質調査業協会
　福岡商工会議所
□ 取引銀行／福岡銀行・西日本シティ銀行・福岡中央銀行
□ 事業内容／地表地質踏査・土質地質調査・原位置試験
　孔内試験・物理探査・土質岩石試験
　地盤解析・土壌汚染調査

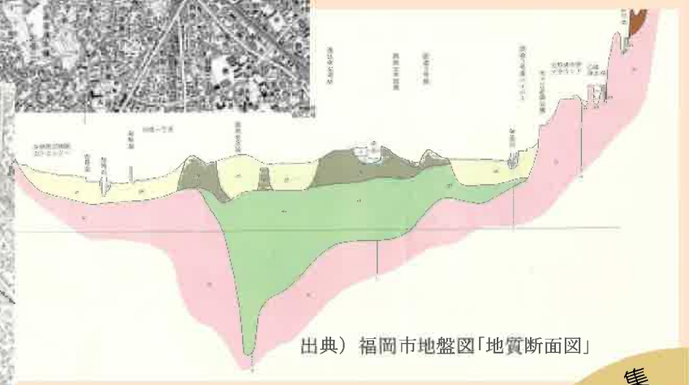
地盤調査のエキスパート

株式会社
西日本ソイルコンサルタント
*Nishinihon Soil Consultant*

## Step 1 既往資料を収集・整理します

新旧の地形図・地質図・地質断面図・既往ボーリングデータ・出版図書など資料を収集します。
新旧の地形図からは、土地利用（地形改変）の経過が把握できます。






目的に合わせ、土地利用履歴・調査工事記録・設計図書・各種ハザードマップ・空中写真・航空写真・学術論文・古文書など、多岐にわたる既往の情報は地盤の評価を行う上で貴重なデータとなります。

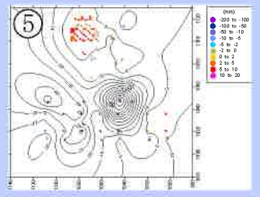
## 現地において各種調査・試験を行い、地盤情報を収集します Step 2

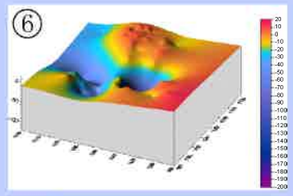
お客様のご要望に即した地盤情報を提供するために、低コストで最適な調査・試験方法を提案し、基礎データを収集します。

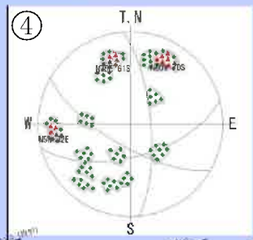
資料収集　現地調査　診断解析　調査事例

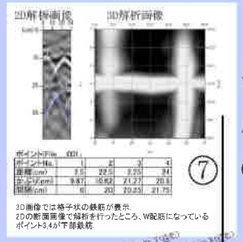
**NSC**
**Nishinihon Soil Consultant**

## 取得データを元に地盤情報を可視化し、地盤特性の評価に利用します

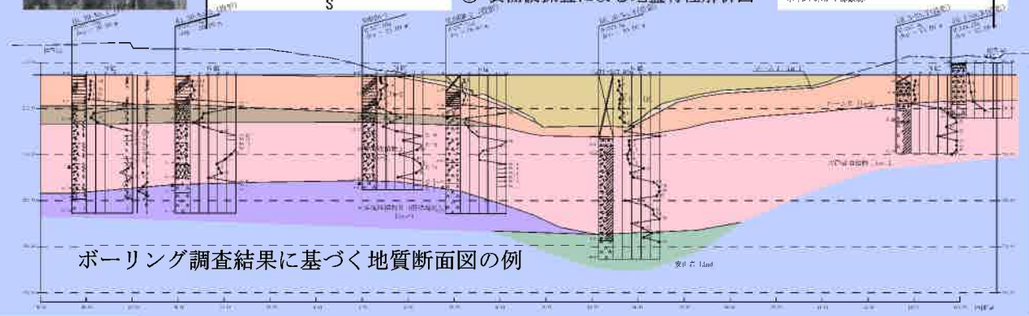


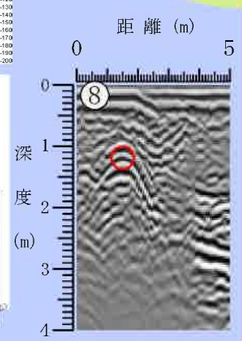


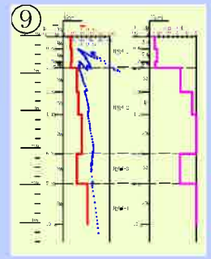


①，② CCDカメラによる管内撮影画像
③ ボアホールカメラの孔内展開画像
④ 孔内の亀裂面のステレオ投影図
⑤ 地盤沈下量の等値線図
⑥ 同上、立体鳥瞰図
⑦ 鉄筋探査機よる解析画像
⑧ 地中レーダ探査の解析画像
⑨ 表面波探査による地盤特性解析図



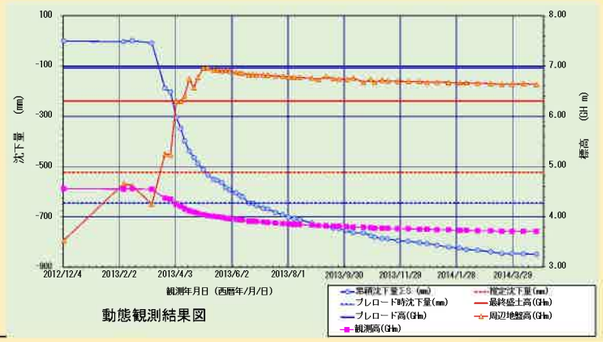
## Step 3 得られたデータをとりまとめ、解析・評価します

人口増加に伴い都市周辺地域の宅地開発が進み、利用価値が減少したため池の再活用事業計画が浮上しました。ため池造成の設計及び施工に際して、ため池を構成する地盤の土質工学的特性が問題となり、地質調査が実施された事例を紹介します。

### －業務事例－ため池の宅地化（埋立造成）工事に伴う地質調査

■開発計画
ため池を埋立て、周辺道路よりも高く嵩上げし、RC3階建の建物を建設する計画事案
■地質調査の内容
造成前のため池内で3箇所のボーリングと乱れの少ない土質試料の採取を行い、室内土質試験を実施
■総合解析
・柱状図、コア写真、原位置試験等の整理及び地質断面図の作成
・土質工学的特性の評価と地盤モデルの作成
・造成に伴う地盤の長期圧密沈下量の検討
■想定された地盤沈下量
ため池の底質の上層部には約5mの層厚を有する有機質粘土やシルト質粘土からなる軟弱層が堆積していて、ため池の埋立てによる嵩上げ高さは約6.5mが計画されていた。
造成計画に伴う地盤沈下量は約60cm～90cm、圧密時間(圧密度90%)も長期間（約1500日）に及ぶことが推測された。

■設計・施工上の課題と提案事項
・地盤沈下対策は必須であること
・地盤対策は地盤沈下を促進させるためのプレロード盛土を推奨
・盛土施工に伴う地盤沈下量を定期的に計測（予測地盤沈下量を検証するための沈下板設置：左下写真参照）することを提案
・建物の建設着手時期は、打設後の支持杭への影響を避けるため、プレロードによる沈下量が計画嵩上げ時の沈下量を超えてから施工に着手することを提案




## 地盤の土質・地質工学的課題への対処方法を提案します Step 4